

令和6年度 檜原村村民対話集会

日 時：令和7年2月14日 19時30分～20時30分

場 所：檜原村役場

村側出席者：村長、副村長、教育長、都民の森管理事務所長、福祉けんこう課主幹、  
ほか職員4名

参 加 者：6名

### 《意見交換》

■サル対策について伺います。64頭捕獲したということで、最近、数馬方面、サル見ていない。11月、12月ほとんど見ていません。家にもなっていて網の中にもなっていて、網の中にあるんですけど、だいぶ助かっていると思うんですけど、被害とは別にですね、今日教育長がいるのでお聞きしたいんですけど、子どもたちが、「100頭捕まえる許可が出て64頭捕まえた」、議会の広報にも出ちゃったんで、子どもたちがあの内容を目にしたりののかなと、考えるんですよね。その時に捕まえたサルをどうするんだと聞かれたときに学校、教育の現場でどうゆうふうな対応を取るのか、子どもたちによっては、すごくショックを受ける子も出るんじゃないかな。悪いサルばかりだったらいいんですけど、一網打尽に捕まえて、目がくりくりした小さいサルも全部ですよね。それを思った時、昨日、檻を落とした職員も、猟友会の人もすごく気持ち的に辛いと言っていました。そういうふうなことを聞いた子どもたちが、どう思うか。心のケアをしなければいけないですよね。そういうことを、考えておかないといけないのかなと思い質問させていただきます。

#### →【村長】

サルの捕獲の件については、担当から聞いていますが、学校でその話がどうなったかという話は、学校の方から聞いておりません。早急に、小学校、中学校の校長に話を伺って、今後どうするのか対応を考えていきたいと思っています。

#### →【副村長】

やはりそういうご意見もあるかと思うんですけど、捕獲したサルについては、検体として研究に使わせていただいて役立たせていただいています。それは、行政的な答弁になってしまうんですけど、そういう形では、命は無駄にしないという考えであります。子どもたちには、通じるかどうかわかりませんが、そういう形で村としてはやらせていただいています。以上です。

→【村長】

最後、しとめる人たちも、夜、心が病むようなことを言っていました。だから、群れを小さくして被害を小さくしなければいけないということで、ご理解をいただきたいと思います。そして、昨日出ているからわかると思うんですけど、中里群という120頭の大きな群れ、これについて、小さくないと被害が増すということで、適正な数にすればサルたちも、暴れまわらないというか、地区でとどまるという先生の指導もあるので、中里群については粘り強く少なくする形でやりますので承知しておいてください。

■学校側の方から言うのではなくて、そういうふうなことを子どもが話題にしたときに、子どもたちだけで話していることがあったら教育の場でも、村長が話したとおり数の管理だとかを目的にして、無駄な命は取っていないんだよということを説明してあげるように、あえてこちらから話すことはないけれど、結構耳に入るのではないかとということを気にしてて、気になって質問させていただきました。

■よろしくお願いします。3つ質問したいんですけども、1つが消防についてなんですけども、今、消防団に入って活動させてもらっているんですけど、どんどん団員が少なくなっていて上元郷地区だと村営住宅なんかあるんですけど、今後そういった村営の住宅なり移住される方々に対して団員として活動できる年齢の方には積極的に消防団活動だったり自治会だったりに入ってもらえるように村の方からも強調してもらえるといいのかなと思っています。

ほかの自治体なんかだと住宅に入る条件としてそういった活動への参加が義務付けられていたりする地域もあるそうです。検討してもらえるとありがたいです。

2つ目がお試し住宅ができるというふうに聞いているんですけども、それがどういうふうに運営されるのか、それについて興味がありますのでお聞きしたいと思います。

3つ目が移住希望者についてですね、僕も移住してきた人間なんですけども、僕の周りにも移住したい方々から問い合わせがあったり、いろいろ声をもらうんですけども、今いったいどのくらいの移住希望者が年間で檜原村にいらっしゃったり問い合わせをするのか、その数が知りたいのと、そういった方々に村の方からコンタクトする方法があるのか、例えば定期的に空き家情報だったり、エコツアー情報だったりそういった情報を移住希望者にお送りすれば喜ばれますし、環境をつくる上でのきっかけになるんじゃないかと思います。以上の3つの質問です。

→【副村長】

それでは私の方から回答させていただいて、副村長からフォローさせていただきます。消防団につきましては、これも全国的に入団者が少なくなってきていて本当に大変だということで、入団、それから自治会に入ることについて、住宅に入る人たちとかそういう人た

ちには「入ってください」という勧誘は必ず話はしていますので、それで応じてくれるかは疑問なんですけれども。それから役場の職員も採用する際にはそういうことはお話をさせていただいて消防団には入ってくるということで、これは間違いなく入るような形で対応しております。

そして後は移住体験住宅ですけれども、これについては千足に2月いっぱい完成予定ということになっております。それからその後いろいろな取り決め、要綱を作りまして、どのくらいの期間、どういった形でお試ししていただくかということを決めて、ミスマッチのないような形で、要するに檜原に来てから「こういったことは聞いてない」とかないような形で進めていきたいと思っていますので、それに沿って村づくり推進係の方で案内をしたり、いろんな形で活用していきたいと考えております。

そしてあと希望者がどれくらいいるのかということで、これについては連絡とかそういう問い合わせがあったときは、できるかぎりそういうようなデータとして取るようにして話しています。

今日ちょっとデータがどのくらいの希望者がいるとかそういうことは、ちょっとお答えできないんですけれども、相当の人から問い合わせがあるっていうことは承知しております。私からは以上なんですけど補足があれば。

→【副村長】

まず最初の、村営住宅とかに入居する場合の消防団の加入とか自治会の加入とかこれについては、私が担当していた頃はですね、一覧表を作って、自治会長のお宅がどこで消防団の部長さんが誰でとか、こういう方が後日、勧誘に行ったりするのでその時は入ってくださいねって形ではしています。で、中にはそういうのを強制的にできんじゃないかって人がいるんですけど、やっぱりなかなか規則とか決まりできちんとやれることって難しいって考え方もあるんですね。例えば、条例化してそれで自治会に入ることを前提で募集をかけろとかって人もいるんですけど、それをやってしまうとなかなかちょっと憲法違反じゃないですけどそういう部分もあったりとかって考えられるので、なるべく入ってくださいねって形ではやってきているところです。

■その方の住所だったり名前だったりお聞きすることってできますかね。役場の方で。勧誘しに行きたいと思っています。

→【副村長】

その辺は、また総務の方と相談してですね、すいません、企画財政の方と相談してみてもですね、それが出せるかどうかっていうところは、逆に名前を出させていただいて、そこに相談してくれって形にさせてもらうかもしれませんが、よろしいですかね。

■はい。大丈夫です。

→【副村長】

移住体験住宅についてはですね、千足の方に建物としては3世帯分あるんですけども、そのうち1世帯を移住体験住宅として、残りの2世帯分は地域おこし協力隊の住居として今、整備をしています。そして運用の方法としては、今考えている中では指定管理者にやっていただきたいなって思っているところがありますので、3月に議会の方に説明をさせていただいて、条例を作って説明させていただき、その後に募集をかけさせていただくような格好になるのかと思っております。で、一応、だいたい今の考えでは7日間程度お試しで住んでいただいて、その間に村の中を案内させていただいたり、ある程度ツアーがあればツアーに参加していただくことが条件みたいな形で使っていただければなって考えているところがあります。

■そうですね、ほかの地域だと観光客が移住ではない観光客が結構使われる大変な地域もあるそうなので、そこら辺を配慮した方がいいと思ひまして。

→【副村長】

そうですね、なかにはもっと長く1年とかそういう方もいると思うんですけど、回転を考えると、とりあえず1週間くらいで本当に住みたいなって思ってる人に来ていただきたいなと思ひているところであります。

■最後の数値については。

→【副村長】

移住希望者の数値については、今ちょっと持っていません。

その中で例えば空き家がでたら教えてくださいねとかそういうので、ツアーがあったら教えてくださいねとかコンタクトを取ってると思うんですけど、そういう例以外についてはホームページで載せたときの反応で今はやられているんじゃないかと思ひます。

すいません、以上です。

■ありがとうございました。

→【村長】

あと1点ですね、私は人口減少を食い止めるために移住定住政策をきちっとやっていきたいなと思ひているんですけども、そして、それには住むところがないといけなひので空き家の活用ですね、それとあと空いている土地をとにかく購入させていただいて住宅を作っ

ていくっていう形で、今年度についても土地を何件か購入することが出来ましたし、それからそういう相談をするところ西庁舎の中でもですね相続アドバイザーというのを採用して、もうすでにおそらく30から40件くらいの相談業務をしています。そして村の方でも空き家を購入してほしいというそんな話もきていますので、順次購入して村営住宅としてそこを修理して貸すような形をとりたいと思っています。

■ 30 できたら結構大きいですね。

→【村長】

相続の相談が30件なんで村に30件買ってくれということではないんですけど、その相続が終わった後にですね、村の方に買ってほしいという家もボツボツでしておりますので、それを村が買い取って住みたいという人に提供できないので、その前の段階だったら村がまた売買のことをしなきゃいけないのでそれは個人の意向に合わせてそんな対応をしたいと思っています。

■ よろしくお願いいたします。3点あります。

1点目は、昨年6月に環境都市宣言を制定されたかと思いますが、自然環境を守る団体や事業者がそれぞれに活動するのではなくて、協議会という形で団体と行政が集まれる村主体で協議会が作れないか。

2点目は、子ども食堂についての要望です。以前、こども食堂が村に無いことを知って、総務課の方に任意団体として活動したい旨を問合せしたところ、村にはニーズが無いとの事で、現状では対応が難しいとの回答を頂きました。その後、こども食堂に関する中間支援団体の助成金や団体の自主財源を活用し2回開催したところ、1回目は60人ぐらい、2回目は80人ぐらいの村内の子どもや保護者が中心で参加して頂きました。子供たちの放課後の食事だけの需要だけではなくて、村内の高齢者にも声をかけたところ、野菜を切ったり、お皿を洗ったり等ではあれば手伝いたいと言って頂いた方がたくさんいて、開催後も次回開催はいつなのかと問合せ頂いている現状もあります。子供の居場所の為だけではなく、自然に村の人が関わったり、子供たちにとって地域の方サポートがあると、子供たちの励みになると思うので、こども食事の運営経費の補助みたいな感じで、近隣の福生市、あきる野市、日の出町や羽村市や青梅市のほとんどの自治体では行政の補助を活用して運営しているので、自主財源だけでは継続するのは難しいので、運営経費の一部補助を要望したいです。

3点目は、小学校で開催されている放課後学習についてです。檜原村では、共同体制構築事業として、おそらくここ数年、学習というかたちで希望する子供が教室に残って村の方から学習しているかと思いますが、東京都では学びより遊びや体験が重視してされており、決められた学習ではなく、主体的に学べる場だったり、子供たちの放課後の遊びが放課後の事業としては注目されているので、取入れたかたちで子どもたちが主体的に学べる放課後学

習の実現をお願いします。以上3点です。

→【村長】

それでは、確かに環境保全宣言をさせて頂きました。提案がありました環境を守っている各団体を一つにまとめた団体を作って活動してはとの提案かと思いますが、よろしいでしょうか。

■おそらく、それぞれの団体が取組んでいる内容は違うにしても環境について活動しますので、それぞれの団体が集まって、協議会などを開催して情報を共有する場を作ることによって密に連携を図ることができると思うので、団体をつくるのではなくて、意見交換をしたり、どういう団体かを作って欲しいとはすぐに回答する事は難しいですが、イメージとしては文化協会のような年に1回程度集まって発表する場があればと思いました。八王子市等では、行政、住民や事業者等を巻き込んだかたちで活動しているので要望しました。

→【村長】

了解しました。それでは、どの団体があって、どういう団体を作ったらよいか詳しくお話しする事はできませんので、生活環境係がありますので、村の中にどの団体があるのかを調査して、宣言の基に活動しているのかを踏まえて調査させて頂いて、どのように推進していくかを検討させて頂きます。協議会等を作るという約束ではなくて検討させて頂きます。

2点目のこども食堂をつくりたいとの事で、1回目は60人ぐらい、2回目に80人ぐらい参加されたとの事で、それ程のニーズがあるのかと関心をもったのですが、小学校と中学校あわせても80人いますので、本当に集まったのかと驚きましたが、実際に集まったとの事です。福祉で実施するのか教育で実施するのか調査する必要がありますので、どこでやるのか決めなければいけないので、こちらも少し検討させて頂きます。

→【教育長】

3点目の放課後学習についてですが、現在、進めさせていただいて、多くの生徒が参加して頂いております。参加して頂いている生徒は学習意欲がありますので、こちらはこちらで継続させて頂いて、それ以外に必要なに応じて取入れるかは検討させて頂きます。

→【副村長】

すみません。こども食堂なんですけれど、こども食堂の目的ですね、それがどういうものを求めるのかで、どの係で担当するか係が変わってきてしまうので、私が考えていたのが、なかなか貧困によって食事ができない子どもがそこに行って食べているという形の子どもの食堂かなってというのが1点あった中で、今使われているこども食堂は、地域の交流の中で、子どもたちと高齢者等と一緒にあってという形の子どもの食堂になっているかと思いますの

で、どういう目的でどうゆう形で運営したいのかを見せていただいて、それによって、どの部署が担当するのか、そこにお金がだせるかを検討させていただければと思います。

■一点よろしいでしょうか。こども食堂のところで、行政的な立場からこども食堂を捉える  
とニーズがあるのかとか、具体的な目的をとってところだと思うんですけど、今、様々な子  
ども食堂を運営している事業者にはヤリングをさせていただいているんですけど、もち  
ろん貧困等によって開催している事業者もありますが、やって初めて貧困家庭に気づく、地  
域の繋がりが見られてから、やっと困ったことがあぶりだされるのが、今の社会の現状かな  
と思います。地域の中でも、学校に行けなくて昼ごはんを一人で食べている子だったり、個  
人レベルで思いつく子もいるので、誰一人取り残さない社会の中で、一番弱い立場の子供が  
そういう現状であるというのは、少しでも改善したい。目的が、貧困への子どもとか、成果  
としてはたくさんあると思います。まずは地域のつながり中で現状があぶりだされるのか  
と感じています。

→【副村長】

その辺の求める道筋、目的をはっきりさせた上で、目標を見せていただければ、行政として  
関われるのかだと思います。例えば食材費なのか人件費等の経費なのかだと思います。どう  
いう目的で、進めていきたいかを、らせていただけて上で、実際の担当係と協議をしていた  
きたいというのが村長の答弁だと思います。

→【村長】

首をかしげているので、2回開催されたのはどこで開催されたのですか。

80人とか参加されたとの事で、食事を作ったりする場所等を教えて下さい。

■払沢の滝へ行く途中にある喫茶やまびこで開催いたしました。一度に60人から80人  
来た訳ではなくて、12時から4時に開催しているので好きな時間に見に来てくださいと  
いう内容です。主に参加して頂いたのが小学校の子供と保護者で、下に子供がいれば保育園  
の園児や、上に子供がいれば中学校の子供も参加して頂きました。配食も可能にしたので持  
ち帰り可能とさせて頂いたので、持ち帰った方もいました。こども食堂推進事業については  
東京都からも助成金が出ていて、その窓口が行政になっているので、細かい食材にあて、何  
にあてるかというのは要綱というか、それに準じた形で経費については、内訳については試  
算出来ると思います。区分によって、東京都から10/10の場合と、東京都が5/10、村  
が5/10みたいな形で補助されるパターンもあります。

→【副村長】

都の補助が直接受けられないということですかね。村を通さないと受けられないという

事でよろしいでしょうか。そういうことですね。わかりました。

→【村長】

都議会の議員さんもいらっしゃるので、その辺は、後でゆっくり聞いていただいて、村のどこかが窓口になって東京都に申請して、こういうふうなことをやって、食材費がどうですってことで、申請して補助率がどのくらいかわからないですけど、村でも足してだす、一般的にはそんな対応をしますので、その辺を含んで多分福祉だと思いますので、福祉に相談して頂ければと思います。

■福祉とは子ども家庭センターの事でしょうか。

→【村長】

やすらぎの里施設内に昨年4月に子ども家庭センターを開設していますので相談して頂きたいと思います。

■ありがとうございます。

■今の発言に付随して、私も発言させていただきます。

こども食堂を開催されて、第1回だと思いますが参加させて頂きました。学年関係なく子供達が楽しんでいる姿を見てうれしかったし、子供に向けて開催されていますが最終的には地域の子育てが終わった世代も一緒になって楽しんでいたのが良い企画だなと思いました。神戸地区の近所の方もお手伝いに来ていて、その女性も毎日親の世話をしていますが、地域の子供の為に活動出来てとても良かったですと話してくれました。子供の為じゃなくて地域の活性の為になればと願いながら参加させて頂きました。

その時の状況を説明したく発言させて頂きました。以上です。

→【村長】

こども食堂の本来の貧困の為に開催するのではなく、色んな要素を含めて村がある程度応援して利用できれば一番良いですね。東京都の補助要綱にひっかからないかもしれないですね。要するに地域の色んな活動を含めしまうと、本来のこども食堂というのは、恐らく地域の事だけでなく貧困だとかそういうことが目的じゃないかと思います。

■1点訂正させて下さい。1回目は子ども食堂として募集して開催し、2回目は誰でも食堂として募集して開催いたしました。

一番はじめは、2012年頃に大田区で子ども食堂スタートしたと思いますが、補食といった目的で実施していたと思います。色んな団体が全国で広まっている中で、貧困家庭に限っ



てしまうと、あそこにいてる子はみたいな形で、ハードルが高くなったり、限られた子供しか利用しなかったり、それが広がりにくくなってしまったり、利用しているとの事で差別だったりするので、ある地域であったりしますので、そういうことを超えた地域教育の為に、コミュニケーションの場になれば こども同士 親同士 世代間交流が図れる為に開催したいと思っています。

→【村長】

思いは分かりましたので、それについて今、具体的な回答ができないので、担当する部署に相談して頂いて、村として対応させていただきますので、よろしくお願いいたします。

■ひとつ思い出した質問がありまして、質問させていただきます。人口減少のところ、多分人口を増やしたり、維持する為に、子育て世代を呼び込まないと難しいと思うんですよ。そういうことを、考えると、ワーケーションで、今笹平でやっていますけれど、そこに子連れで来たいという方がいらっしゃるんですね。例えば子連れワーケーションをやっている地域がありますけど、例えば保育園だったり、小学校だったり連携して、昼はサテライトオフィスで働いてもらって、子どもは、一時保育だったり、一定期間小学校に通ったり、そういうことがどうしたら出来るのかというのがひとつですね。お試し住宅とも関連にもなるんですけども、移住して欲しいターゲットが子育て世代としたら、多分お試し住宅でもこの問題が出てくると思います。お試し住宅に滞在している人が、保育園や小学校に子どもを通わせたいというケースも出てくると思いますので、その辺もぜひ対応して欲しいのが希望です。

→【村長】

今の話は、前に話をさせていただいた話だと思います。デュアルスクール。

こっちに滞在している間に、学校に通えないかという相談をさせていただいたんですけど、教育委員会から学校の方に投げかけてあって、回答してあるのかな。

→【教育長】

その話を私も聞いて、デュアルスクール関係でお話を聞かせていただいて、可能かどうか校長に話をさせていただきました。とりあえず、すぐにやることは、不可能ですが、ただ、見学をしてもらうことは結構だということで、先程話していたように、体験住宅は、1週間程度と聞いていますので、だいたい子どものいる方については、夏休みの休みの期間を中心にやりたいということで、今後もしその体験住宅に、夏休みを除く、ほかの平日期間とかで来るようなことがあって、需要があれば。それとデュアルスクールのメリット、デメリットを考慮しながら住宅が出来次第検討させていただきたいと思っています。

■保育園は、今すぐ出来るんですかね。保育園次第になるんですかね。

→【村長】

そうですね、今、言われたような形で、お試しの住宅だとかに来ている間にですね、村でもきちっとした形で対応しなければいけないので、どこに医療機関があるですとか、保育園、学校があるとかそういうことについても出来たら、私の考えとしたら、そこに住んでる間にですね、案内をして檜原のことをよく知っていただいて、それで村に来ていただくと、そんな対応が出来たらいいなとそんな気持ちでいます。ぜひ、よろしくお願いします。

■今、檜原温泉数馬の湯は毎月いっぱい村民は無料で開放していただいているんですが、もう少しPRをした方がいいんじゃないかなと。広報には書いてありますけれど、週に1回くらい「温泉センター無料開放しています。どうぞご利用下さい」という放送していただければ、もう少しお客さんも増えるのかな。私も週3日、4日行くんですけど、だいたい決まったメンバーで「今日も来てますね」位の話しかないですけど、その辺のところをお聞きしたい。

2点目が、ヘリポートの場所の候補地は上がったんでしょうか。その辺のところをお聞きしたい。

あと、入間白岩林道は、東京都の管轄ですけど、今、舗装工事をやっているんですかね。その上がりきったところの平になった所の埋め土をした所が、道路がかなり沈下してきている。沈下してきた所の下には住宅が1個あるので危険があるかどうか確認していただいて、出来れば東京都によって補修工事していただきたい。道路の補修をしていただきたいということ。

もう1点藤倉なんですけれど、やっぱり道路の沈下。キノコセンターに行く手前の、テレビのアンテナがある手前かな。あそこの右も石積のところが20～30cmと路肩が下がっているんで、大雨で水がしみ込んだらあぶないので見て危険だと感じたら対応をお願いしたいと思います。

→【村長】

それでは、数馬の湯の無料開放についてですが、村の方とも相談しながら、解放しております。確かに、PRが少ないかなと感じています。こちらのやすらぎの里の湯に関しても、だいたい来る人は決まっているような形で、PRしてもなかなか増えないのが現状なんですけれど、それについては確かにPR不足ということで、PRをさせていただきます。

そして、ヘリポートのことなんですけれど、ヘリポートについては、ご承知のとおりヘリポートがなくなってしまったということで、そして新しいヘリポートのことで、人里の丹田林道のところで場所を選定したんですけど、土地を使ってもいいよと言われたんですけど、なかなかその場所は、造成するのにお金がかかるということで断念して、そして数馬

の堰堤の上の土地で今調整中です。そして、奥に入間に行く電気の線がバイパスで通っているんですけど、それが進入が片側になってしまうので問題あるかなという事だったんですけど、そこは片側でもいいでしょうという形で、東京消防庁の航空隊の方も見ていただいています。今度、地主さんの方の交渉をしていくということで担当の方で行って交渉してくださいということで、今やっております。

そして、入間白岩林道、東京都で管理している林道なんですけれど、沈んでいる場所を現地を担当に見てもらいます。それから、ヘリポートに行くところの下の方の路肩がちょっと沈んでいるということで、それは村で管理している道路なので、担当に確認して、補修が必要であれば補修の対応をします。

#### 閉会      【村長】

本日は、お忙しいところ、対話集会にご出席いただきまして、ありがとうございました。皆さんからいただいた、ご要望やご意見は、村政運営に反映させていただく予定でございます。これからも、住民に開かれた新しい檜原村を築いてまいりたいと思いますので、これからも、ぜひ皆さんにご指導をいただきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。本日は、ありがとうございました。